

山本悦子による、ひとりひとりの孤独に寄り添う青春小説

『アリゲーターガーは、月を見る』

『神隠しの教室』『夜間中学へようこそ』『マスク越しのおはよう』など
現代に生きる子どもたちを描いてきた作家による最新作を刊行致しました。

〈STORY〉

お堀に捨てられ、どこにも行けない巨大外来魚〈アリゲーターガー〉と、
その孤独に引かれるように出会った 3 人の若者（中学男子 2 人と 19 歳女子）。
堀の底から、なぜか 3 人の前にだけ現れる外来魚を核に、それぞれが背負う過
去や現在が徐々に明らかになる……。抱えている孤独が減ることはないけれど、
やがて 3 人は前を向いて歩みはじめるまでを印象深く描きます。

ご高覧の程、よろしくお願いいたします。



- 一、朔哉は、月を仰ぐ
- 二、航は、月をつれて行く
- 三、葉月は、月に思う
- 四、後藤は、月を待つ ……（目次より）

装画・ゴトーヒナコ
B6 判 上製 192 ページ
定価 1,650 円（10%税込）
ISBN978-4-652-20685-0 理論社
2025 年 5 月刊行

山本悦子（やまもと・えつこ）

愛知県半田市生まれ。小学校教師のかたわら執筆を始め 1996 年に作家デビュー。

『神隠しの教室』で第 55 回野間児童文芸賞受賞、『先生、しゅくだいわすれました』でホワイトレイブンス 2016 選定、『マスク越しのおはよう』で第 63 回日本児童文学者協会賞受賞。他の作品に『夜間中学へようこそ』『ボーダレスケアラー～生きてても生きてなくてもお世話します』『今、空に翼広げて』『いつかの約束 1945』『わたしに続く道』などがある。日本児童文学者協会会員。「ももたろう」同人。2019 年より新美南吉童話賞選考委員。

本書についてのお問い合わせ先 理論社編集部 岸井美恵子

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-5